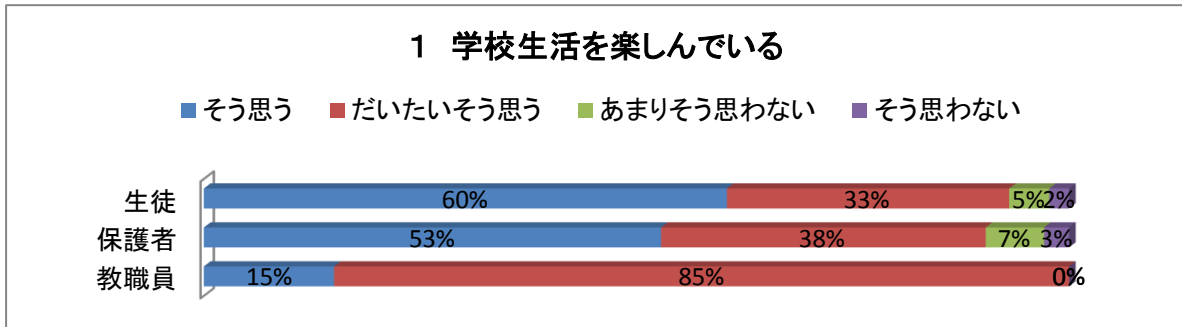
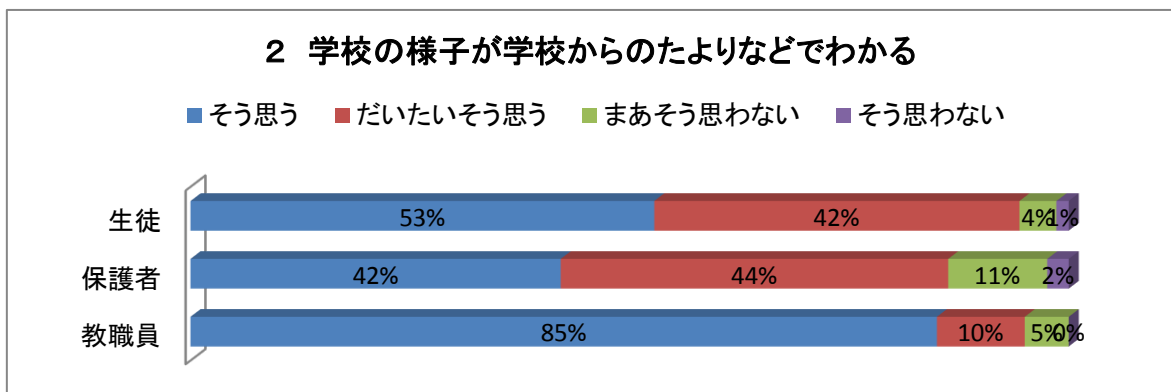


1. 分析結果と考察

- ① 設問1の「学校生活は楽しい」では、90%以上の生徒及び保護者が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。しかし、「あまりそう思わない」「そう思わない」が10%程度いる。このことから、学級・学年が楽しくないのか、授業が分からないなら楽しくないのかを分析し、学級・学年の規範の徹底、生徒同士のコミュニケーション能力の形成、教師の分かる授業づくりを行っていく。

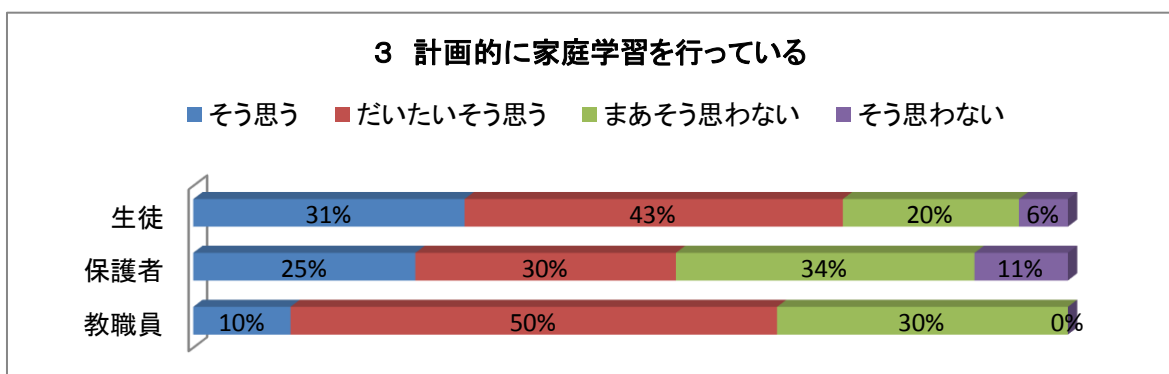


- ② 設問2の「学校の様子が学校からのたよりなどでわかる」では、「そう思う」「だいたいそう思う」の評価が、生徒及び教職員では95%、保護者では86%の肯定的な回答であった。たよりを保護者に見せない生徒がいることが考えられるため、保護者に手渡す等の指導、ホームページ等を閲覧する等のお願いをしていく。



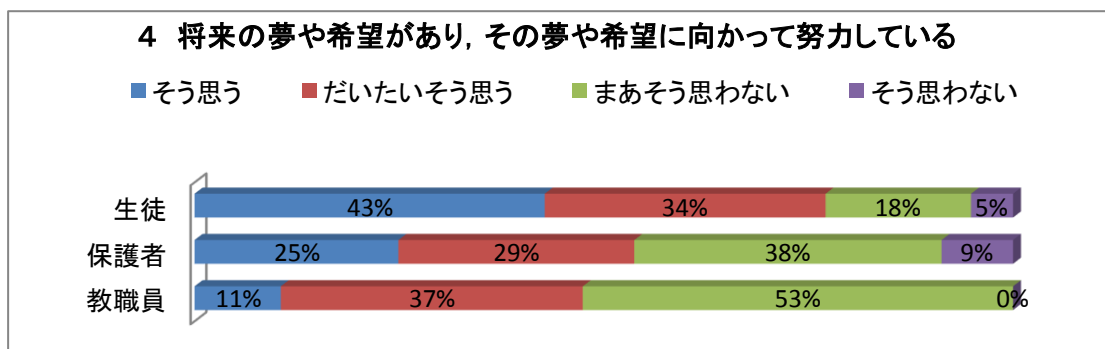
- ③ 設問3の「計画的に家庭学習を行っている」では、生徒の「そう思う」「だいたいそう思う」の評価が74%と、多くの生徒が家庭学習に積極的な取り組んでいることが感じられた。しかし、保護者の評価は55%で、生徒との結果にだいぶ差が見られた。このことは、保護者の子どもへの期待が込められた結果の表れで、悲観的な数字ではない。

今後は、生徒、保護者ともに「そう思わない」の評価が若干あるので、その評価が0%に近づくように、家庭と学校が連携した取り組みを推進していく。



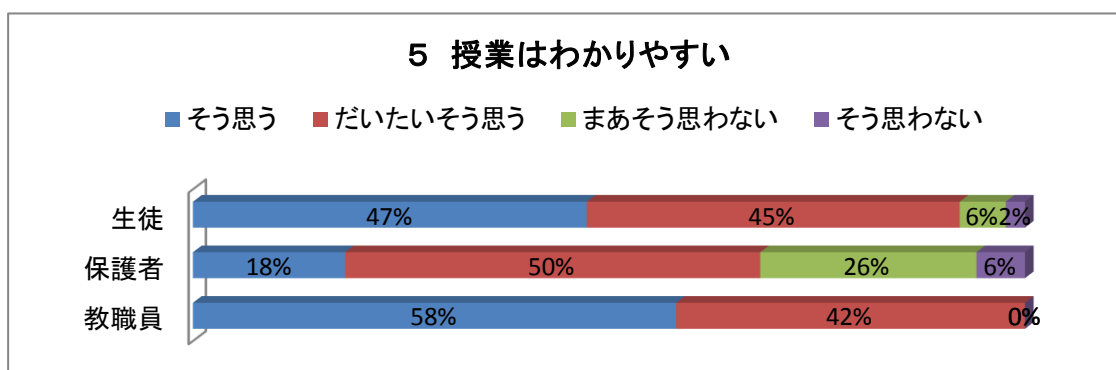
- ④ 設問4の「将来の夢や希望があり、その夢や希望に向かって努力している」では、「そう思う」「だいたいそう思う」が、生徒では77%と高い評価に対して、保護者が54%、教職員が48%という結果であった。保護者や教職員の生徒への期待の大きさを痛感した。しかし、生徒は夢や希望であり、保護者や教職員は目標と捉えていた数字の表れでもであると予想される。

生徒の中には、「まだ夢が決まっていない」などの意見も複数あり、日頃から教職員・保護者が生き様を見せ、道徳などでも考える授業、特別活動でキャリア教育の明確な位置づけ等を行い、夢や希望に向かって努力をする気持ちを育てていく。



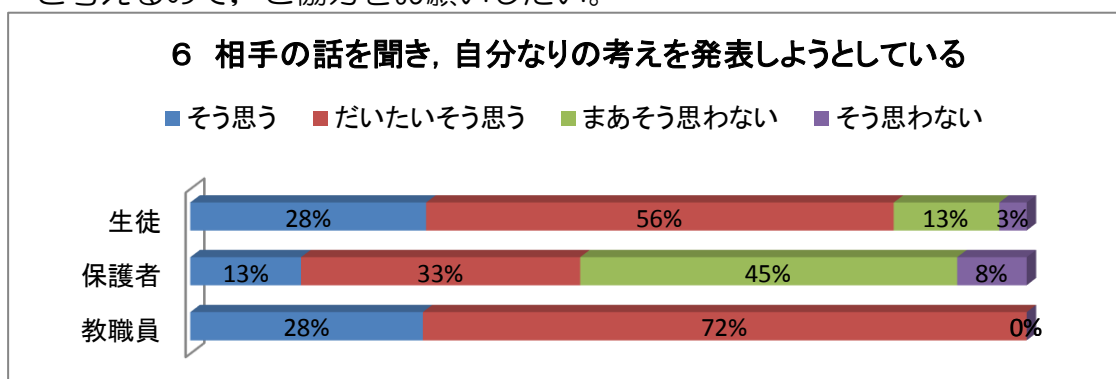
- ⑤ 設問5の「授業はわかりやすい」という質問に、生徒の92%、教職員の100%が「そう思う」「だいたいそう思う」という肯定的な回答であった。しかし、保護者は68%で生徒、教職員との差が大きかった。

この結果を受け、我々教職員は授業参観などで「ねらい」を明確にし、誰が見ても「今日の授業は〇〇を学習するのだ」が分かるようにする。また、保護者は子どものテスト等の結果を見て、「授業でもっと教えてくれれば」と思っていると思われるので、分かる授業づくりに努めていく。



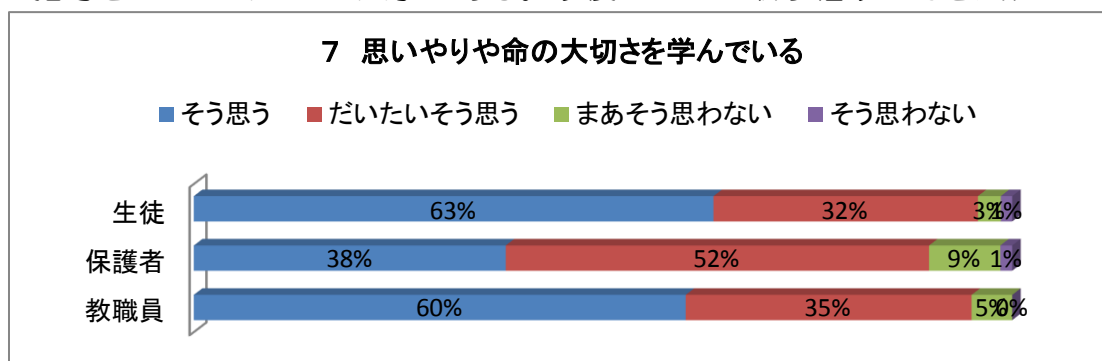
- ⑥ 設問6の「相手の話を聞き、自分なりの考えを発言しようとしている」では、生徒は84%、教職員が100%であるのに対し、保護者は46%であった。

生徒や教職員が授業等の場で意識的に発表の場面をつくっているが、保護者にはその変化があまり伝わっていない。あるいは、家庭での会話に生徒なりの考えを聞く機会が少ない。ということが予想される。家庭での会話の機会を今以上に多くしていただくことで、生徒なりの考えを聞く機会も増えるのではないかと考えるので、ご協力をお願いしたい。

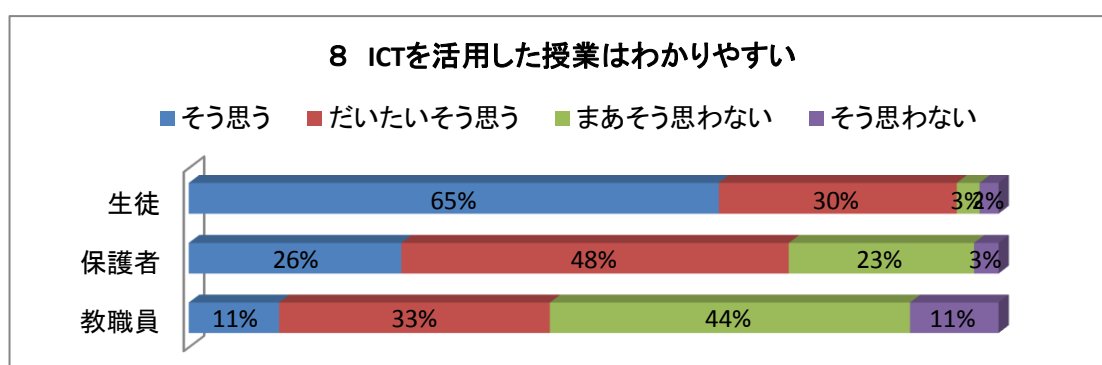


- ⑦ 設問7の「思いやりや命の大切さを学んでいる」では、生徒、保護者、教職員とも90%以上の好結果だった。

この「思いやりや命の大切さ」ということは、家庭と学校が連携し、継続的に指導をしていくことが大事である。今後も日々の取り組みに力を入れていく。

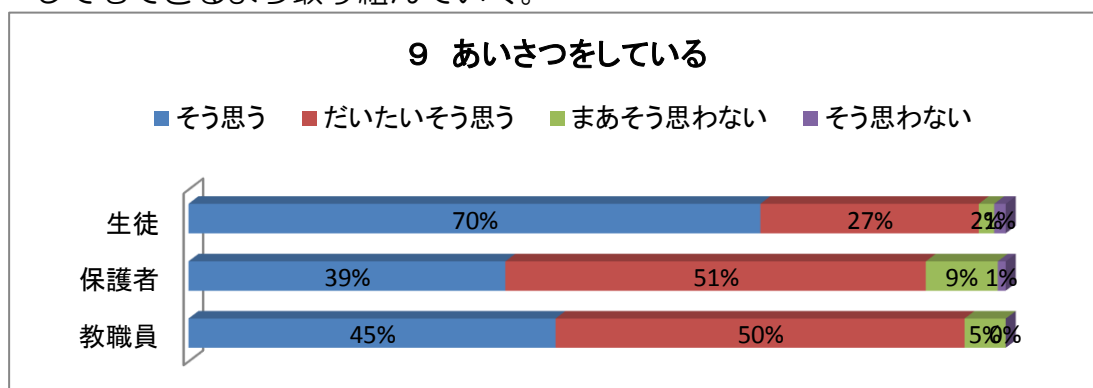


- ⑧ 設問8の「ICTを活用した授業はわかりやすい」では、タブレットや電子黒板等を活用した授業を行っている教科は、生徒の評価は95%もあり、活用の良さが表れている。一方、ICTを活用した授業実践を行っていない教科が半数以上あることから、2学期以降は研修を重ね、ICTを活用した授業づくりを推進していく。



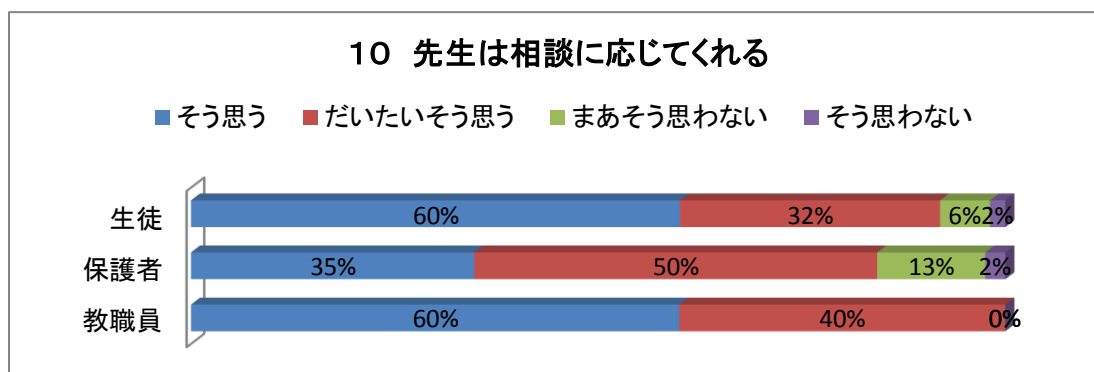
- ⑨ 設問9の「あいさつをしている」では、生徒、保護者、教職員とも90%以上が肯定的な回答をしている。中でも、生徒の70%が「そう思う」と評価している。

これは、生徒会執行部や生活委員会を中心に日頃からのあいさつ運動に取り組んでいる成果だと考える。これからもさらに気持ちのよいあいさつが誰に対してもできるよう取り組んでいく。



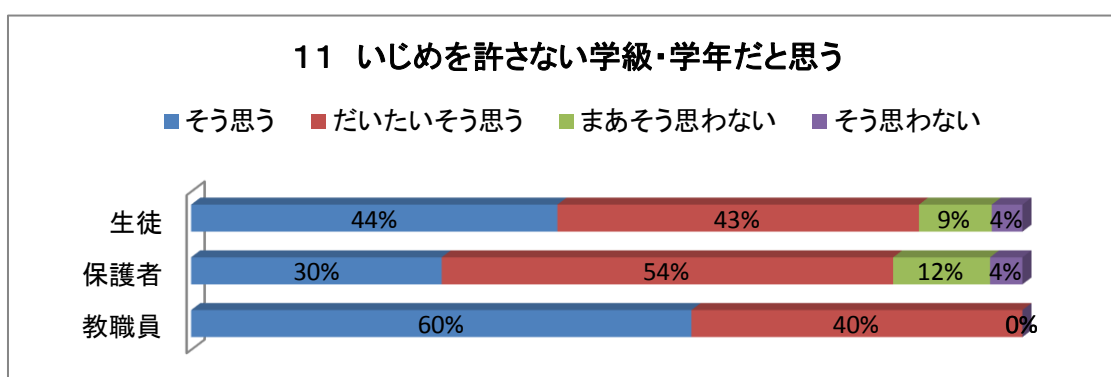
- ⑩ 設問10の「先生は相談に応じてくれる」では、生徒の92%、保護者の85%が肯定的な回答をした。

しかし、この設問には限りなく100%に近づけることが必要である。少人数授業やTT授業でのきめ細かな指導、すみよしタイムの運用方法、日常での声かけ、生活ノートの活用等今まで以上に相談に応じる体制づくりを行い、相談しやすい環境づくりに力を入れていく。



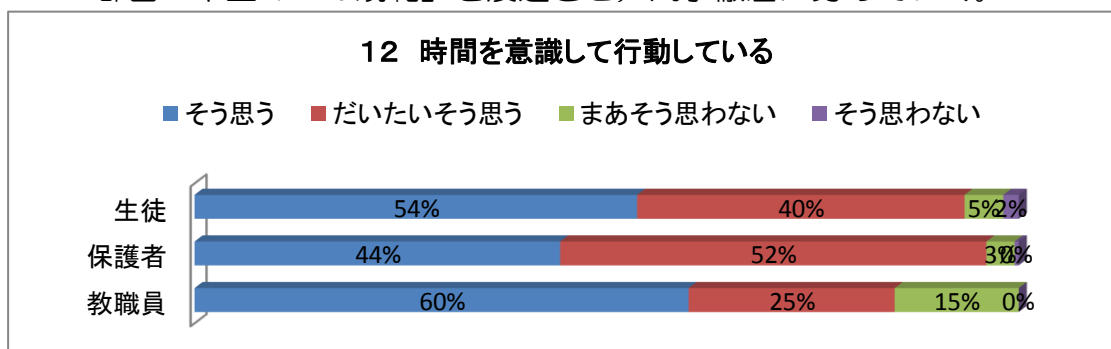
- ⑪ 設問11の「いじめを許さない学級・学年だと思う」では、生徒の87%、保護者の84%が肯定的な回答であった。

しかし、この設問も⑩と同様に、限りなく100%に近づけることが必要である。少人数授業やTT授業でのきめ細かな指導、すみよしタイムの運用方法、日常での声かけ、生活ノートの活用等今まで以上に相談に応じる体制づくりを行い、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいく。

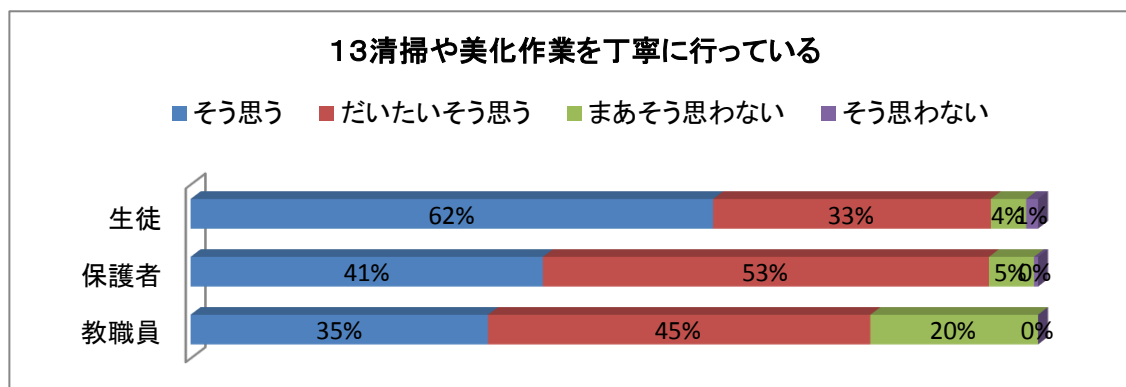


- ⑫ 設問12の「時間を意識して行動している」では、生徒の94%、保護者の96%が肯定的な回答をしているのに対し、教職員の評価は85%で若干低かった。

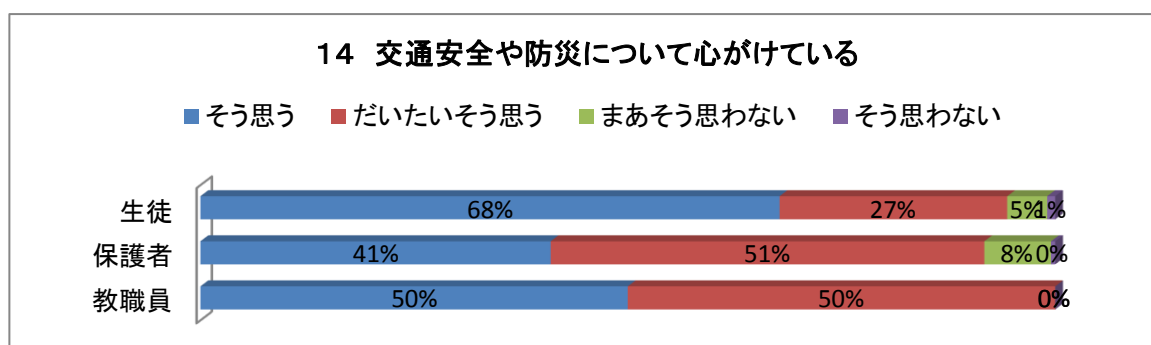
まだ十分に時間を意識した行動をしていない場面があると予想できるので、「都留一中生4つの規範」を浸透させ、凡事徹底に努めていく。



- ⑬ 設問13の「清掃や美化作業を丁寧に行っている」では、生徒・保護者ともに95%が肯定的な回答をしている。しかし、教職員は80%で若干低い評価である。これも⑫の設問と同様に、大多数の生徒はしっかり行っているが、一部にまだ不十分な生徒がいると予想できる。「都留一中生4つの規範」を浸透させ、清掃や美化作業に黙々と行なうよう指導を続けていく。



- ⑭ 設問14の「交通安全や防災について心がけている」では、生徒の95%、保護者の92%、教職員の100%が肯定的な回答をしている。これまでの交通安全指導や防災避難訓練などを日常的に実施してきた成果だと考える。これからも、「お父さんやお母さんから授かった命を守る」という高い意識を持たせる指導や、危険箇所やその都度の事例を用いた指導に努めていく。



## 2. 成果と課題

(成果)

多くの質問で肯定的な回答をいただくことができた。大部分の生徒が真面目に落ち着いた学校生活を送っていることが感じられた。また、「家庭学習や夢・希望」の質問から、生徒が自分自身の将来に向けて努力している姿も感じられた。さらに、「あいさつ・時間・清掃・美化作業」などの日常的な活動にも高い意識で取り組んでいることが感じられた。

(課題)

「学校の様子や授業、発表」の質問に対して、やや保護者の評価が低かった。生徒が家庭で学校のことなどを話していないことが予想される。学校からの情報発信に今まで以上に取り組むとともに、家庭でも学校のことを話題としていただけるよ

うにしていきたい。

また、「相談・いじめ」についての評価で「あまりそう思わない」という評価が見られた。教職員は100%であり、生徒・保護者と教職員の意識にも差があると感じた。さらによい評価になるよう、全教職員で取り組んでいきたい。

「ICT」については、1学期末にタブレットが本校に導入されたばかりで、まだ本格的には活用されていない。今後さまざまな場面で活用し、「ICT」の良さを生かした授業づくりを行い、生徒の学力向上を図っていきたい。